

総合計画体系	政策No.	4	政策名	未来を担う人と文化を育むまちづくり	施策主管課	生涯学習課
	施策No.	5	施策名	歴史資産と伝統文化を保存・継承し活用を図る	施策主管課長名	平野 玉緒
関連個別計画					関係課名	秘書広聴課

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか)\*人や自然資源等

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標)\*:総合計画の目標指標

市民、歴史資産・伝統文化	名 称		単位	名 称		単位
	A	人口(常住人口)	人	C	史跡	件
	B	保存・伝承している歴史的遺産(指定文化財)	件	D	郷土芸能団体会員数	人
歴史資産と伝統文化を守る	A	歴史資産・伝統文化が適切に保存・継承され、活用が図られていると感じる市民の割合*	%	D		
	B	指定文化財を知っている市民の割合*	%	E		
	C			F		

⑤ 成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由)

市民の歴史資産・伝統文化に対する指標として「歴史資産・伝統文化が適切に保存・継承され、活用が図られていると感じる市民の割合」および「指定文化財を知っている市民の割合」を設定した。

⑥ 成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

A:「歴史資産・伝統文化が適切に保存・継承され、活用が図られていると感じる市民の割合」及びB:「指定文化財を知っている市民の割合」は市民アンケートから把握する。

2 指標等の推移

指標名		名称	単位	数値区分	前期基本計画期間			第2次総合計画 後期基本計画期間				
					2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(実績)	7年度(目標)	8年度(目標)	9年度(目標)
対象指標	A	人口(常住人口)	人	見込み値	53,000	52,800	52,500	52,900	52,700	52,500	52,300	52,000
				実績値	53,187	52,937	53,121	52,700	52,365			
	B	保存・伝承している歴史的遺産(指定文化財)	件	見込み値	86	86	86	89	89	89	89	89
				実績値	86	88	87	87	86			
成果指標	C	史跡	件	見込み値	259	259	259	259	259	259	259	259
				実績値	259	259	259	259	259			
	D	郷土芸能団体会員数	人	見込み値	85	85	85	78	78	78	78	78
				実績値	78	78	78	76	76			
成果指標	A	歴史資産・伝統文化が適切に保存・継承され、活用が図られていると感じる市民の割合*	%	目標値	70.0	72.5	75.0	55.0	60.0	65.0	70.0	75.0
				実績値	45.0	45.9	41.7	46.2	45.5			
	B	指定文化財を知っている市民の割合*	%	目標値	74.0	75.0	77.0	70.0	72.0	73.0	75.0	77.0
				実績値	68.0	66.1	63.6	67.1	68.4			
	C			目標値								
				実績値								
成果指標	D			目標値								
				実績値								
	E			目標値								
				実績値								
成果指標	F			目標値								
				実績値								

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)

文化財(史跡等を含む)の保存管理は、原則所有者にその責任があるが、文化財は個人の資産であるとともに、市民及びその地域にとっても貴重な文化資産でもある。歴史資産・伝統文化は、一度失うと取り戻すことは非常に困難であることを理解し、市民が保護活動や継承活動に取り組むことが求められている。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと)

・市は、文化財や歴史資料等を収集、保存(保管管理)するとともに、様々な角度から体系的に紹介(展示)し、文化財保護の意識を高める。また、後世に継承するための編さん業務を行い、必要に応じて資料集等を発行する。

・市は、歴史資産・伝統文化を次世代に継承するため、その活動に取り組む市民・団体を支援し、後世に伝えていくための環境整備を行う。

・市は、文化遺産が市民に公開され、利活用されるよう技術的・財政的支援並びに発掘等の調査を行う。

② この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか

・来館者から、季節展や特別展について、継続的に開催するよう要望がある。

・文化財保護審議会から、文化財への関心が高まった反面、もっと理解を深めるためのPRをするなど、文化財保護行政に力を入れるべきとの意見がある。

・学識経験者から、市史編さんの事業に対して、市内の自然環境や動植物に関する調査および書物の刊行についての要望がある。

・指定文化財の所有者から、文化遺産の保護・保存に対して、財政的支援をしてほしいとの要望がある。

## 4 施策の成果水準とその背景

(1) 時系列比較(令和2年度との比較)	(2) 近隣他市との比較(水戸市、ひたちなか市等との比較)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した。 <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した。 <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した。	<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。
* 上記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)	* 上記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
指定と指定解除が2件ずつあったため、市内指定文化財は86件から変化はない。埋蔵文化財包蔵地数259件及び郷土芸能保存会2団体は変更ない。「歴史資産、伝統文化が活用されていると感じ市民の割合」は令和2年度の45.0%から微増し、令和6年度は45.5%となった。また、「指定文化財を知っている市民の割合」は令和2年68.0%から令和6年度68.4%となり微増となった。	近隣市町の歴史民俗資料館の入館者状況。 ・那珂市 R6: 4,742人 R5: 4,617人 R4: 9,154人 ・水戸市 R6: 17,724人 R5: 15,202人 R4: 15,179人 ・日立市 R6: 13,185人 R5: 14,817人 R4: 13,428人 ・常陸太田市 R6: 13,330人 R5: 13,419人 R4: 9,202人 ・常陸大宮市 R6: 928人 R5: 1,229人 R4: 1,172人 ・城里町 R6: 2,580人 R5: 2,813人 R4: 3,530人 入館者数はコロナ禍時より回復はしているが、近隣市町村と比較すると低い水準である。

## 5 施策の現状と課題

<b>① 施策の現状(当市の特徴、その要因として考えられること等)</b> ・額田城跡において、令和5年度は本丸、令和6年度は二の丸の3次元測量を実施し、これまで目視では確認できなかった城跡の遺構を確認し成果を得られた。 ・額田城跡保存会による積極的な史跡保護活動が展開されるなど、市民の文化財への関心は高まっている。 ・歴史民俗資料館では、歴史資産や伝統文化を様々な角度から紹介したり、特別展を開催し文化財等について広く啓発を行っている。 ・郷土芸能保存会(菅谷大助ばやし・門部ひよっこ)の自主活動を支援しているが、会員の高齢化、会員数の減少が問題となっている。 ・年々姿を消しつつある民俗伝統行事については、映像保存事業で作成したDVDを館内で上映したり市民や団体に貸し出ししている。 ・埋蔵文化財包蔵地内の宅地造成や住宅建築に伴う試掘・発掘調査の件数及び太陽光パネル設置の埋蔵文化財関連の届出が増加している。 ・指定文化財の今後の状況について、文化財の所有者・管理者に行ったアンケートの結果をもとに、今後の保存管理を計画的に行う。
<b>② 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)</b> ・歴史民俗資料館で実施する特別企画展や展示講演会など、歴史資産を有効に活用し、魅力ある企画を展開することにより来館者を増やし、歴史・文化に関心のある人を増やし、文化財の保護につなげる。 ・郷土芸能の活動について情報発信を行う。 ・民俗伝統行事映像保存事業の成果を活用し、民俗伝統行事の理解と継承を図る。 ・郷土への愛着心や誇りを醸成するため、歴史資産や伝統文化の保護保存・活用に努める必要がある。また、地域資源として活用を進めるため、シティブロモーション推進室及び関係機関と連携し、市の文化財の魅力の発信を図る。

## 6 施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)・方針

・「指定文化財を知っている市民の割合」、「歴史資産・伝統文化が適切に保存・継承され、活用が図られていると感じる市民の割合」については、第2次那珂市総合計画後期基本計画(R5～R9)において施策の成果を表す指標として位置づけ、それぞれ中間目標値(R7)と目標値(R9)を設定している。 ・「指定文化財を知っている市民の割合」(歴史資産や伝統文化に対する市民の意識)は、過去5年間の平均が66.4%と比較的高い水準を維持しているが、「歴史資産・伝統文化が適切に保存・継承され、活用が図られていると感じる市民の割合」は過去5年平均44.9%と半数に満たず低い水準である。今後、額田城跡の試掘調査や、指定文化財の展示を通じ市民の意識が高められていくよう施策を推進し、前者の令和7年度の目標値を73%、後者を65%に向上させる目標値を設定した。
--

## 7 施策の目標達成のための基本事業

基本事業	基本計画期間における取り組み方針	主な事務事業
歴史資産の保護・保存と活用	・常設展示は、市内の歴史を時系列で紹介する上では充実しているが、不足しているテーマについては部分的に展示内容を変更したり、企画展で紹介している。 ・歴史民俗資料館で実施する特別展や季節展、さらには展示講演会など、魅力ある企画を展開することにより来館者を増やし、歴史資産に関心をもってもらう。 ・歴史資産や伝統文化を保存及び有効活用し、後世に伝承していく必要がある。 ・郷土芸能などにふれる機会と発表する場を増やしていく。 ・民俗伝統行事映像保存事業の成果を活用し、民俗伝統行事の理解と継承を図る。 ・郷土への愛着心や誇りを醸成するため、歴史資産や伝統文化の保護保存・活用に努める必要がある。また地域資源として活用を進めるため、商工観光課、シティブロモーション推進室及び関係機関と連携し、産業や観光の振興及び市の魅力の発信を図る。	文化財保護対策事業
		額田城跡整備事業
		特別企画展開催事業
		市史編さん設置事業
		シティブロモーション推進事業
伝統文化の継承と活用	・市内に残る無形の伝統文化財が失われないように、映像や記録の保存・活用による伝承に努める。 ・郷土芸能の保存に取り組み、地域の子供たちに伝承指導している団体の活動を支援する。	団体補助事業